

「いい家」とは何か。家づくりに携わる人たちの、それぞれの思いを紹介していく。形こそ違うものの、つくり手が施工主の要望に応えながら導き出した答え。多彩な家のひとつひとつが、どのような価値観によって生まれているのかを探る。今回は、「第5回真の日本のすまい提案競技」で林野庁長官賞を受賞した寺澤秀忠さんの「伝統構法・二〇〇〇年住宅」にスポットをあてた。

## 私が考える「いい家」

(1)

### 伝統技術・文化を継承する家づくり

—抄拓・寺澤秀忠さん(38)

Q・寺澤さんにとって伝統構法の魅力とはなんですか?

A・まず、木組みの安定感と粘り強い構造特性。在来工法は建て前直後にぐらぐら揺れます。が、伝統構法は揺れずに安心して登れる。地震の際も傾きはしても極端な倒壊は起こりにくい、人命を守られる構造です。

そして、つくりの面白さ、奥深さ。棟梁と納まりを決め、プレカットでなく人の手でつくる家は、満足感があるし、人の思ひがこもっていて温かさを感じる。

また自然素材による快適な住環境、間取り変更やメンテナンスがしやすさなど、本来住まいに求められる要素を無理なく満たすことからも、伝統構法の住まいの良さを確信しています。

Q・在来工法と伝統構法の違いは何ですか?

抄拓が設計した伝統構法の木組み。折置き組み・渡りあご・差し鴨居・足固め、による田の字型架構。壁には通し貫を入れる

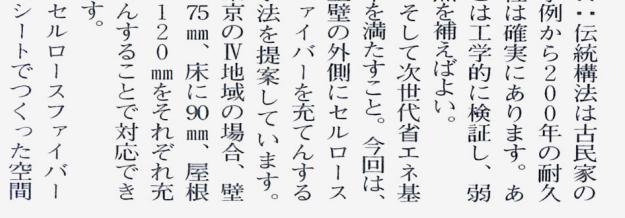


抄拓が設計した伝統構法の木組み。折置き組み・渡りあご・差し鴨居・足固め、による田の字型架構。壁には通し貫を入れる



抄拓が設計した伝統構法の木組み。折置き組み・渡りあご・差し鴨居・足固め、による田の字型架構。壁には通し貫を入れる

完成した住宅の内観。「人の手をかけて造る家は思ひがこもってて温かい」(寺澤さん)という



完成した住宅の内観。「人の手をかけて造る家は思ひがこもってて温かい」(寺澤さん)という

A・伝統構法は古民家の事例から2000年の耐久性は確実にあります。あとは工学的に検証し、弱点を補えばよい。

そして次世代省エネ基準を満たすこと。今回は、土壁の外側にセルロースファイバーを充てんする手法を提案しています。

東京のIV地域の場合、壁に75mm、床に90mm、屋根に120mmをそれぞれ充てんすることで対応できます。

セルロースファイバーはシートでつくった空間

デル化して評価するには

以上掛かります。

また建て前も日数が掛かります。建て前は1日

に10人以上の職人が関わります。1日遊びるとレッカ一代を合わせて30万円くらい飛びわけです。

ただでさえ費用がかかる

A・考えなければいけないのは、昔の大工がなぜ筋交いを使わなかつたか。

4本で囲まれた木枠に斜材を補強すればゆがみを抑える、という原理は基本的なもので、古くから木造の橋や櫓などに事例があります。

伝統構法は多くの接点をもつ竹籠(かご)のような構造といえます。接点の多い通し貫に小舞をかき、土壁を塗つて面の耐力を持たせる。こうして建物全体に満遍(まんべん)なく力を伝わせることで地震力を吸収します。これに対し在来工法は筋交いや金物で部分的に強度を高めますが、力を受け流すことができず、軸体に多大な傷を残してしまう。

こうした伝統構法のしくみは施工に携わるものなら体感としては誰でもわかるものですが、竹籠

のような無数の接点をモデル化して評価するには

### 伝統構法の要は竹籠のしなやかさ

#### 流通コストの改善 新金融制度に期待



建前風景。「棟梁と何度も話し合いかながら納まりを決め、人の手できちりつくっていく満足感」も伝統構法の醍醐味

Q・伝統構法に取り組むなかで、どのような改善をされてきましたか?

A・伝統構法の仕口・継ぎ手は複雑で手刻みのため大工手間がかかります。電気工具の改良のおかげでだいぶ軽減されました

がそれでも刻みに1ヵ月がかかる。そこで伝統構法に取り組む工務店が集まり、商社と一緒に仕入れ値交渉を行う体制ができるので、瓦にこだわりを掛けたメンテナンス費用の予算配分とメンテナンスを含めた耐久性を把握し、机上の空論にならない提案が必要になると考

えます。伝統構法は工事期間が長い分、住宅ローンのつりぎ融資の日数が長く不利な点がある。これが、第三者機関の検査を条件に、つなぎ融資が不要で出来高支払いが受けられる住宅ローンを活用することで解決できます。

そこで伝統構法に取り組む工務店が集まり、商社と一緒に仕入れ値交渉を行う体制ができるので、瓦にこだわりを掛けたメンテナンス費用の予算配分とメンテナンスを含めた耐久性を把握し、机上の空論にならない提案が必要になると考

えます。伝統構法は工事期間が長い分、住宅ローンのつりぎ融資の日数が長く不利な点がある。これが、第三者機関の検査を条件に、つなぎ融資が不要で出来高支払いが受けられる住宅ローンを活用することで解決できます。

また今後、優良な住宅に対する返済期間が50年以上の超長期住宅ローンができるとも聞いています。伝統構法であれば対象になるでしょう。これまで建築基準法改正で7月以降は、限界耐力計算に適合判定の審査をする人材がないため、確認が下り難い状況が続いている。改正以降で伝統構法の限界耐力計算法を用いて確認が下りたのは1件だけと聞いている。伝統構法



一級建築士事務所 抄拓代表 寺澤秀忠さん

木造建築の設計に憧れた代表寺澤さんが、工務店の現場監督、設計事務所を経て1997年に設立。現在はRC・鉄骨・在来木造まで幅広く設計を請け負いながら、これまでに伝統構法を3棟建築。2008年「真の日本の住まい」の提案競技で林野庁長官賞を受賞。TEL: 03・3906・7500 http://www.syotaku.jp/

に充てんするので隙間はありません。今後は、木のチップやおが屑を材料にしてつくるのも良いなと考えています。

また、適材適所の設計を大事にしています。屋根は、耐久性を考えればとを考えています。

つだけに痛手は大きい。コストの削減も大事です。伝統構法の実践を支援する組織として「伝統構法の会」を設立し、現役員を務めています。

Q・今後の伝統構法の普及についてどのようにみていますか?